

TAMC

Bulletin of the Tokyo Amateur Magicians Club

会報

令和5年12月号

December 2023

主要内容 (令和5年11月)

- 第1例会： 11月 2日 (木) 18:00~20:00 田中田村町ビル5階 5C 会議室
秋の大会の反省：村上大会委員長 ほか
会員発表：神辺 貴昭 君 中村 紀典 君
- 第2例会： 11月 16日 (木) 18:00~20:00 田中田村町ビル 5階 5C 会議室
会員発表：松岡 聡 君 三好 勉 君 濱谷 堅蔵 君 氣賀 康夫 君
- 土曜研修会：11月 25日 (土) 13:30~17:00 電巧社本社ビル M-Theater
・「ボランティアなど実践で役立つ簡単なマジックの紹介」
講 師： 田澤 利明 君、磯部 真一 君



湖東三山の紅葉

令和6年(2024) 1月の活動予定

- 新年会： 1月 6日 (土) 12:00 ~ (アルカディア市ヶ谷)
- 第二例会： 1月 18日 (木) 18:00 ~ 20:00 (田中田村町ビル貸会議室 5C)
- 土曜研修会： 未 定

令和5年(2023年)11月の活動記録

◆第1例会 11月2日(木) 18:00~20:00

司会：古賀 輝行 記録：柏木 直也 出席 24名
ZOOM参加者 7名

例会のLIVE記録

<https://youtu.be/Yf8Zf9QVKYA>



1. 秋の大会の反省

「秋の大会 10/22 の振り返り・総括」	村上日出夫大会委員長
「会長から一言」	土屋 理義 会長
「トリオ de マジック」	近藤 誠 君
「幻の無尽蔵」	八田 進二 君
「アストロボールII」	田澤 利明 君
「つれづれなるままに Part2」	池内 和彦 君
「クローズアップ劇場：カードマジック」	柏木 直也 君
「クローズアップ劇場：お土産マジック」	牧原 俊幸 君
「光の饗・演」	犬竹 一浩 君
「ブレインゲーム」	土屋 理義 君
「夢へのいざない part4」	濱谷 堅蔵 君
「まとめ」	大会委員長 村上 日出夫 君

発表者：イベント委員長 高橋 雅洋 君 「懇親会 10/22 の実施報告」

2. 会員発表

神辺 貴昭 君	「各種マジック紹介」	P.22
中村 紀典 君	「83歳の近況とマジック数題」	P.28

2. 連絡報告事項

① 土屋 理義 会長 より

- ・秋の大会でのご寄付のご報告
- ・小岩奇術愛好会第63回発表会(11/25)のお知らせ
- ・故島田晴夫氏の遺品について(44ページに特別寄稿あり)

② 田澤 利明 研究・研修委員長 より

- ・土曜研修会のお知らせ

令和5年11月25日(土) 電巧社 M-theater

◆ 第2例会 11月16日(木) 18:00~20:00

司会：古賀 輝行 記録：柏木 直也 出席 29名
ZOOM参加者 4名

例会のLIVE記録

<https://youtu.be/P6Lk9h1h93I>



1. 会員発表

松岡 聡 君	「近況とシルクとロープの手順」	P.29
三好 勉 君	「近況とTAMCから学んだマジック演技」	P.31
濱谷 堅蔵 君	「各種マジック紹介」	P.35
氣賀 康夫 君	「カード奇術基本講座 第11回(最終回)」	P.38

2. 連絡報告事項

- ① 村上 日出夫 大会委員長 より
・秋の大会のDVD・Blu-Rayの購入希望者募集のお知らせ(12/21に配布予定)
- ② 土屋 理義 会長 より
・2024年(令和6年)発表会の日程のお知らせ
『家族会』 令和6年5月26日
『秋の大会』 令和6年10月27日
・「90周年記念誌」進捗状況報告
12/7に配布予定
- ③ 高橋 雅洋 イベント委員長 より
・2024年(令和6年)新年会のお知らせ
令和6年1月6日(土) アルカディア市ヶ谷
- ④ 田澤 利明 研究・研修委員長 より
・土曜研修会のお知らせ
令和5年11月25日(土) 電巧社 M-theater
- ⑤ 吉室 誠 会員より
・小平マジック発表会(11月19日)のご案内

◆ 土曜研修会 11月25日(土) 13:30~17:00

電巧社ヘッドオフィス M Theater 出席者 15名

「ボランティアなど実践で役立つ簡単なマジックの紹介」

講師：田澤 利明 君 磯部 真一 君 P.42

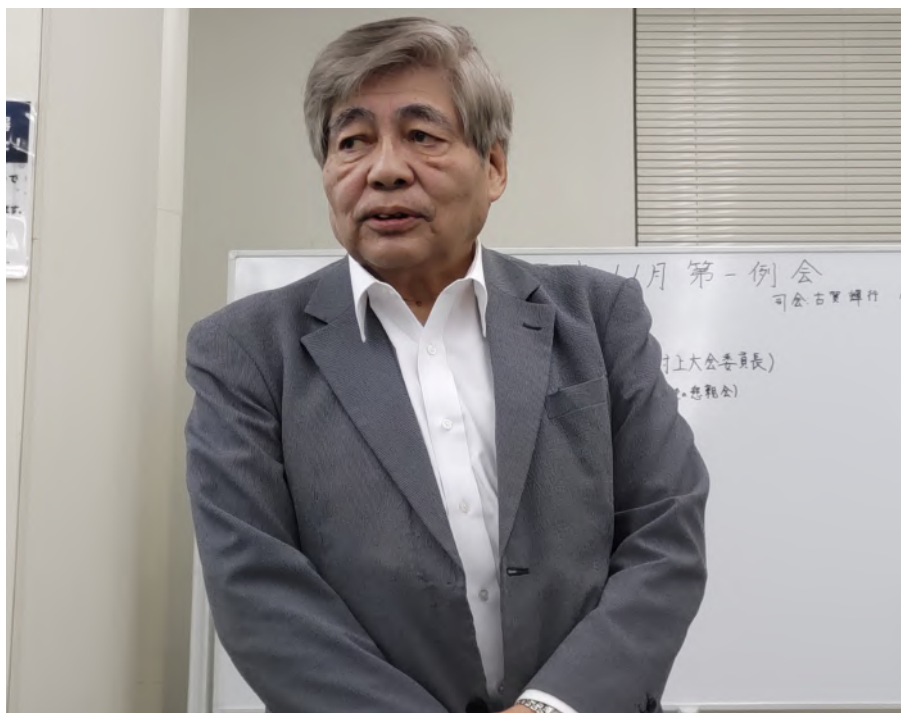
◆「“第75回マジック発表会”を終えて」

・「“第75回マジック発表会”振り返りと今後の課題」 村上大会委員長

出演者数 26名 (15演目)

総観客数 589名 (指定席 191名 自由席 398名)

チケット配布総数 872枚 (来場率 67%)



今年の発表会は、創立90周年記念行事として、年初から大会委員会を中心に準備を進めて参りました。見応えのあるマジックをお客様に見て頂き、喜んで頂くことを目標に当日まで毎月、綿密な打ち合せを行いながら、頑張ってお参りました。

会員の皆様からのご協力のお陰で、その甲斐もあり、お天気にも恵まれ、沢山のお客様がご来場いただき、殆ど満席状態(観客入場者数：589名)になり、大変ご好評を頂き安堵致しました。有り難うございました。

しかしながら、今回の一番の反省点は、当日、午前中のリハーサルが大幅に遅れてしまった事により開場・開演時間を15分遅らすことになってしまい、お客様に大変ご迷惑をお掛けしたことです。

大会委員会としては、この原因を追及し、今後このような事が起きないように対策を行って参ります。

今後とも、宜しくお願いいたします。

<お客様の声>

- 「バラエティー溢れる、ユニークでオリジナリティの高い、不思議で、愉快的マジックでした。
- 流石に伝統ある TAMC の発表会であるという感銘を受けました。惜しみなく費用をかけ、品格ある方々のスタッフや出演者の皆様のおもてなしの気持ちが十分伝わってきました。
- 一般の発表会とひと味違う品格を感じました。
- 司会の方の落ち着いた紹介や会の進行も素晴らしいものでした。
- ハラハラドキドキすることなく、リラックスして鑑賞することが出来ました。
- 何より出演者の方々が、自らマジックを楽しんでいるという雰囲気がとても印象的でした。
- プロのマジックショーとは異なる楽しさ、優しさを感じました。
- ほぼ満席（前は 60%以下）の観客にびっくりしました。
- マジックも演者の皆さんの巧みな手捌きとおしゃべりで、家族共々非常に楽しい時間を過ごせました。
- 演者の喋りがとても上手くて、引きずり込まれました。
- プロジェクター使用は、アマチュアの発表会では TAMC が最初だと思います。テーブルの手元がスクリーンに映し出されたのに感嘆。
- お土産マジックとしてのクオリティは高いです。これなら私でも、小さい方の孫くらいは、煙に巻けそうです。
- 音楽（曲の選定）がとても良かったです。

<大会委員からの声>

- 開場・開演の 15 分遅れに対する苦情は聞こえてこなかったが、開場前にホール外まで並んでおられるお客様からは、早く開場して欲しいとの苦情があった。
- TAMC 集合写真撮影時に、待ち行列を管理する TAMC スタッフがいなくなり、その時、朝日ホールのスタッフの協力があつた。
- 自由席の客 40~50 人が、間違えて指定席に座っていたので、声をかけて移動して貰った。

<午前中のリハーサルが遅れた主な理由>

- ① 舞台における照明設営が 30 分遅れた。照明業者に対する予定時間の確認不足。
- ② 演者が舞台における道具の位置や、照明、音楽のきっかけ・切換えについて明確になっていないので、確認に時間を要した。
- ③ 道具係が不足していたので、スタッフの役割が都度対応になってしまい時間を要した。
- ④ リハーサルにおける各演技の確認を丁寧にやり過ぎた。

特にクローズアップの時間が掛かりすぎている。

<今後に向けての課題>

- ・当日の時間が少ない中でのリハーサルの在り方を考える。
- ・役割分担の見直しを含めて、大会委員以外の方にもっと協力を求める。
- ・自由席の客の誘導（座席含む）の在り方を検討する。
- ・当日の午前中におけるスケジュール時間管理を行う人を指名し、権限を与えて警告を発してもらう。

・「創立 90 周年記念・第 75 回マジック発表会を振り返って」 会長 土屋 理義 君



創立 90 周年にふさわしい「バラエティ溢れる、ユニークでオリジナリティの高い、不思議で、愉快的」マジックの数々をお見せできたと思います。プログラム構成も素晴らしく、従来より一段と洗練された演目が続きました。演者のしゃべりが、いずれも上手で、他のクラブの発表会に見られない品格の高い大会になりました。

さらに会場内での TV モニターによる過去の発表会の映像や、スライドショーも、新たな試みとして成功しました。

これらは、演者や大会委員は勿論のこと、裏方の役割を担った会員や、さらには会員のご家族の協力があってのもの、心から感謝申し上げます。本当にご苦労様でした。



トリオは2004年に結成されたので、今年で16回目になる、長寿の団体芸かと思えます。

当時の大会委員長森田氏の発案で大道具、綱本、音響係から選び、初めに演技させれば、裏方の仕事に専念できるであろうとの配慮から決まったようです。

ダンスはプロの振付師の指導を仰ぎましたが高額な費用負担、簡単な振付でも身に着ける迄に相当苦勞する人が出るなど個人差がありました。また、折角ダンスを身に着けて発表会でダンスを披露しても、ダンスを見た家族から、『来年は辞退して』と言われ、欠員がでることが多々あり、メンバー選定も苦勞しました。そこで、簡単で覚えやすいヒゲダンスとかTVコマーシャルで流れているダンスを採用したりしました。

さて、今年のトリオのコンセプトは、『普段見なれているマジックを大きな道具で表現して、ステージで見せる』でした。

年の初めから、『ドラえもののどこでもドア』にヒントを得て、チャレンジしました。大きな壁がドアを中心に、壁全体を裏返す。裏返したら別世界、新たな世界の出現、『TAMCも91周年に向けて、新たなスタートをきるぞ』とのメッセージを込めました。

以前サッカーの川淵さんにマジックを森田さんと私で指導し、発表会に出演してもらったことがありました。原案は森田さん。物作りも森田さんが担当されると思っていたら、失敗してもいいから近藤が担当しろということになり、色々工夫して、物つくりの鬼の森田さんから合格点をもらいました。

今回の道具の原型はA4サイズの薄い紙で作られいますが、現物は畳ほどの大きさ4枚の段ボール、厚さも5mmあるものを組み合わせて作れるか・・・それがまず、課題でした。

道具づくりに長けた森田さんに相談を持ち掛け、すぐに発泡スチロールで1/10模型を作って頂きました。

段ボールを折り曲げた際の段ボールの厚み5mm、厚い所では1.5cmの厚みをいかに克服して、折り畳むか、強度は十分か、自立するかなどの課題を試行錯誤して完成させました。この模型がなかったら、このマジック道具は短期間で出来上がらなかったかも知れません。森田さんには感謝です。使った材料は神社でコロナ防止用の衝立として使用していた180 x 90 x 0.5 cm大の段ボール衝立で、神社から10枚寄付していただき使いました。段ボールの表面は壁紙で装飾し、大きな文字はプロジェクターで投影して、型を取り、切り抜きました。

最大の弱点は、強度のある段ボールといえども所詮は紙、使用している間にヘタレ、折れ目が入り、折れてしまうリスクや自立に不安が出ました。リハ時は相当痛んでいて、皆様にご心配をおかけしました。ビバホームなどに通って、軽くて丈夫な補強材を捜し、段ボールの周りを補強し、発表会までにはしっかり自立する2号機を作り上げることが出来ました。

『どこでもドア』に加えて、『マンモスカードを使ったマジック』を採用しました。制作担当は磯部さん。できもよかったと思います。曲も磯部さんの提案で8/12に亡くなられた『松旭斎 すみえ』師匠を偲んで『オリーブの首飾り』をBGMで使用しました。

メンバーに井上氏が加わり、新たなチャレンジとして、トリオの演技 → 選手宣誓 → 村上大会委員長挨拶の手順と構成にしました。オリンピックを参考に、選手宣誓で出演者全員の意気込みを表現しました。

練習は村上氏も加わり4人、色々意見が出ました。最後は4人の力が合体して、まとまった演技に仕上がったのではないかと思います。

・「幻の無尽蔵」の演技を終えて」

八田 進二 君



今回は、「幻の無尽蔵」と題して、古くからある「マイザーズドリーム」を中心に、福岡広信氏との共演で、それぞれにワインクーラーのバケツとビールグラスをもって、空中からコインを出現させて集めたり、それらをすべて一瞬にして消失させる演技を行った。最後に、再び、二人とも、空中から大量のコインを出現させるオリジナルの手順で構成したことから、マジックに精通している人から見ても不思議に感じられたと思っている。

なお、リハーサル時には、二人とも無言での演技を行うシナリオにしていたが、本番では、ともにピンマイクを付けることにしたため、急遽、掛け合いでの演技を行うこととなったが、かえって、適当な間合いとることもできて良かったと思っている。

ただ、我々の出番が、大会開演後2番目という早さだったことからの緊張感もあり、私自身、少し急いでの演技になっていたことが反省点である。その点、福岡氏は、軽妙なトークを交えての演技になっており、練習の成果が出ていたものと思っている。

最終的には、及第点を貰える演技であったのではないかとと思っている。



アストロボール（Floating Ball）は氏原秀記さんが2018年10月のTAMC秋の大会にて演じられましたが、脳腫瘍の再発で2020年3月に亡くなりました。

日本ではプロ含めてだれも演じていないこのフローティングボールを何とか再演したいという思いで今年4月、氏原さんのご遺族にお願いして道具一式を譲り受けました。それからの3か月は装置の解明であつという間に月日が流れてしまいました。糸の選定も悩みました。最初は太めの糸で室内に張ってボールを移動させるだけの単純なこともスムーズにできず、ノウハウは小さな滑車リールにあることがわかりました。舞台の両袖に立てるポールも見た目には簡単ですが、実際に3.5mの高さのポールに糸を張ってボールを移動させると三脚が前後左右にぐらつき、安定させるための足の位置もノウハウだったのです。そして、倒れないように重りで固定するのも一苦労でした。

演者が浮遊を制御する非常に小さな滑車リールもノウハウの塊で私にはとても製作できないものです。6月末ようやく、細くて強度のある糸を見つけ、以後自信を持って練習し、装置一式の組み立て方、使い方、動かし方などがわかってきました。

9月24日のリハーサルまで2か月が勝負でした。氏原さんは廃校の体育館で練習したと聞いていましたので、区に電話しまくり、体育館も借りられると聞きました。クーラーはないと知り、それならと、家のすぐそばに公園があったので、屋外で練習することにしました。身近な会議室では3mを超える天井高さの大きな部屋はどこにもなく、屋外が一番の練習場所になりました。昼間は35度を超える猛暑で、涼しくなった夕方は、やぶ蚊にあちこち刺されました。週2-3回を目標に練習して、何とか氏原さんの演技に近づいたように思います。

さて本番では、糸が見えない照明の実現に30分程度が必要ですが、全体のドライリハの遅れから客席のあちこちから糸が見えないような設営は無理だとわかり、強引

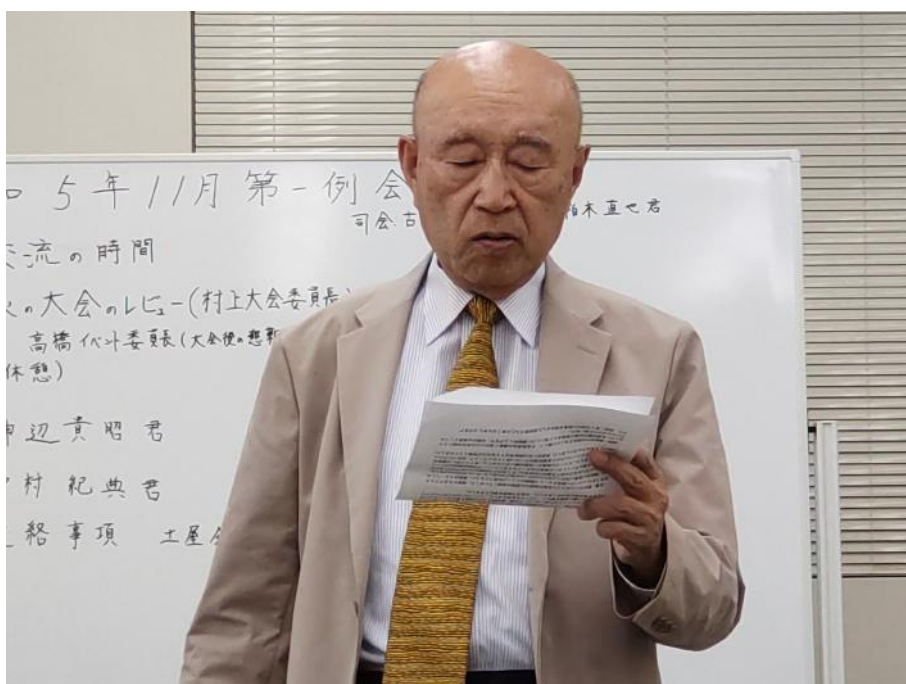
に、勘で本番照明を決めました。案の定、客席 10 列くらいの上手・下手の客席からは非常に演技が見難く、正面では糸が見えていたという感想をもらいました。原因はホリゾン幕ではなく映写スクリーンによる問題だと判明しております。

演技の最終段階で糸が切れる事態になりましたが、演技でほとんどの観客に糸切れを気づかれることなく終わることができたのがせめてもの救いでした。

出来れば来年、多くの課題を克服して、2018 年の氏原さん同様かそれ以上の演技の実現に向けてリベンジしたいと思います。また、氏原さんが研究され製作されたアストロボールのノウハウと演技は、TAMC の財産としても残してゆきたいと考えています。

・「つれづれなるままに Part2」

池内 和彦 君



(構想) 観客と一緒に楽しむことを目標にテーマを決めました。森田晃さんと古賀輝行さんが平成 22 年の発表会で演じた「ナイロビの動物たち」の時の観客の集中している様子が強く印象に残っております。その後、川淵三郎さんが平成 25 年の 80 周年記念発表会に演じたサッカーの J リーグチーム名を当てる「オフサイド」が客席と融合しておりました。この 2 つの演目が観客と一緒に楽しむことができ面白い作品であると思っておりましたので、今回の発表会のテーマに採り上げようと考えて、森田晃さんに相談をしましたところとても快く理解してくれました。演目の構想を始めたのは、一年前のマジック発表会を終了した時点です。

(要点) TAMCは男性の年配者の会員が多い中で、多湖輝先生は大勢の子供たちを出演させてダンスを採り入れることで客席の雰囲気や和らげておりました。平成18年「魔女の贈り物」、平成19年「今年も楽しく」、平成20年「光のペイジェント」の作品でした。

また、平成21年には尾崎教弘さんが空手を指導している子供たちを多数出演させた「空手の世界」がありました。TAMCのマジック発表会の中に子供を出演させることもプログラム上面白くなると考えました。

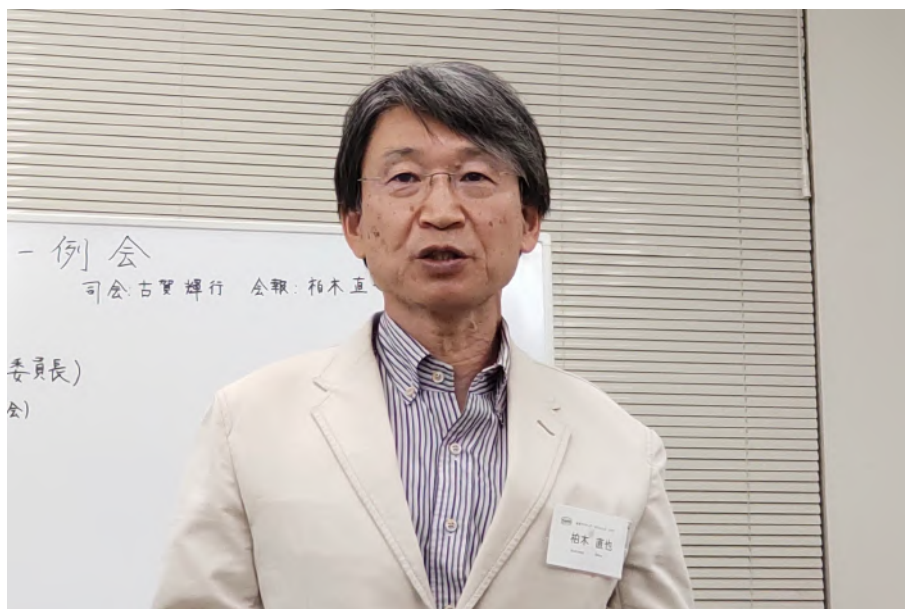
以前、高橋忠利さんがお孫さんと出演したことはとても印象に残って楽しい思い出となっている。と聞いたことがあり、それならば、小学3年生の孫を出演させようと考えました。

(準備) 森田晃さんから動物たちのカードを譲り受けたのは、正月に開催された新年会の席上でした。その後、「ナイロビの動物たち」のシナリオを参考にして、新たに「つれづれなるままに」のシナリオを作成しました。その間、森田晃さんから何度も修正をしてもらいました。孫と一緒に練習を重ねて、リハーサルを迎えました。リハーサルではいろいろとアドバイスを頂き修正点が出てきました。本番まで練習を重ねてきました。

(本番) 朝日ホールは600名の満席のお客様が来場していました。観客たちをアフリカのサファリーパークへ誘導することで動物のイメージを持ってもらい、演技はスタートしました。演技中に客席に向かってビニールボールを投げ入れました。ボールがどの人へ行くか、またどのようになるかは全く予測が付きません。そこがライブの面白さであります。ボールが客席の中を飛んでいくときには観客が注目しておりました。ここが今回の演技のポイントの一つでありました。ステージと客席の一体感が醸し出されました。終了した時には観客をアフリカのサファリーパークから有楽町朝日ホールへ戻ってもらうことで、次のプログラムに集中してもらうようにしました。発表会に私の関係者は88名の方が来場してくれました。

(感想) 発表会に出演をすることに際して、大会委員の準備運営と当日進行には大変お世話になりました。会員の裏方仕事に担当をして頂いた方に感謝申し上げます。次回は出演者として出ていただきたいと思います。

また、終始一貫して温かい助言を頂きました森田晃さんには厚く感謝しお礼申し上げます。



今回、受付とクローズアップ劇場を担当いたしました柏木です。

受付では、開場が遅れたこともあり、短時間に観客が受付になだれ込みましたが、皆さんのテキパキとした働きのおかげで大きな混乱はなかったかなと思います。

『クローズアップ劇場』は昨年からはまった新企画で、今年は牧原さんを筆頭に倉持さん、佐々木さん、私の4名が担当いたしました。（佐々木さんは欠席）

昨年の経験から、カメラアングルの重要性を痛感していたため、当日のリハーサルではカメラクルーとの調整には特に神経を使いました。田澤さんからもカメラクルーに対し積極的にご意見いただいたことが奏功し、本番ではスクリーン越しのマジックが見やすかったと高評価をいただきました。

元来ステージマジックの経験がまったくない新参者の私に、出演できる企画をいただき、しかも2年連続で舞台に立つ機会を与えていただいたことは私にとって東京生活の良い思い出として一生忘れられないものとなりました。TAMCには感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に、観客の選び方に対する貴重なご助言をいただいた森田さん、気の利かない私を終始サポートしてこのセクションのリーダーとして私たちを牽引していただいた牧原さん、リハーサルで建設的なご意見をいただいた会員の皆さん、そして何より村上大会委員長を筆頭に大道具や音響や舞台監督を務めていただいた大会委員会の皆さまにはあらためて深謝いたします。

本当にありがとうございました！

最後に、会長から送っていただいた、観客から寄せられた感想を転載します。
皆さま、温かい目で見守っていただき、感謝いたします。

(クローズアップ・カード)

- ・ テーブルの手元がスクリーンに映し出されたのには感嘆…これならば、席が前でも後ろでも、大丈夫に見ることができます。
- ・ クローズアップマジックの赤と黒。原理は知っていたはずですけど、絶妙な手順と演出で、すっかり騙されてしまいました。
- ・ 観客にトランプを適当に割り振ってテーブル上に置かせると、赤札だけ、黒札だけに分かれるマジックには興味を惹かれました。
- ・ 観客も参加したカードマジックが、不思議?????

・ 「クローズアップ劇場：お土産マジック」

牧原 俊幸 君



クローズアップ劇場について

リハーサルではカメラマンとの連携を確かめるため時間がかかり、皆様にご迷惑をかけました。

今後はタイムキーパーを置いていただくと助かります。

佐々木さんの当日欠席のアクシデントはございましたが会場の皆様には大画面で楽しんでいただけたと思えました。

お土産マジックに関して

氣賀さんの解説を丁寧になぞることは出来ませんでした。ポイントだけに絞り、やらせていただきました。

入口誘導、受付に関して

多くの皆様のご協力をいただき、昨年に比べ大きな混乱はありませんでしたが、11Fに多くの皆様が溜まってしまったこと、自由席の来場枚数が、席数オーバーギリギリだったことなど課題も残りました。



山崎邦宣、守岡喜一、高橋哲夫、古賀輝行、犬竹一浩の5人の団体演技の為、練習が非常に大変であった。

私も片道約2時間半かけて、合計6回の団体練習の為に阿佐ヶ谷地域区民センターと、区立久我山会館へ通った。ヘリウムガス風船の関係で大会の前日も一堂に会して練習を行った。特に田澤さん、濱谷さんには、その都度いろいろな面でご指導して頂き心より感謝申し上げます。

蔵原さんも体調の関係で出演こそ断念致しましたが、ほぼ毎回同席いただきありがとうございました。

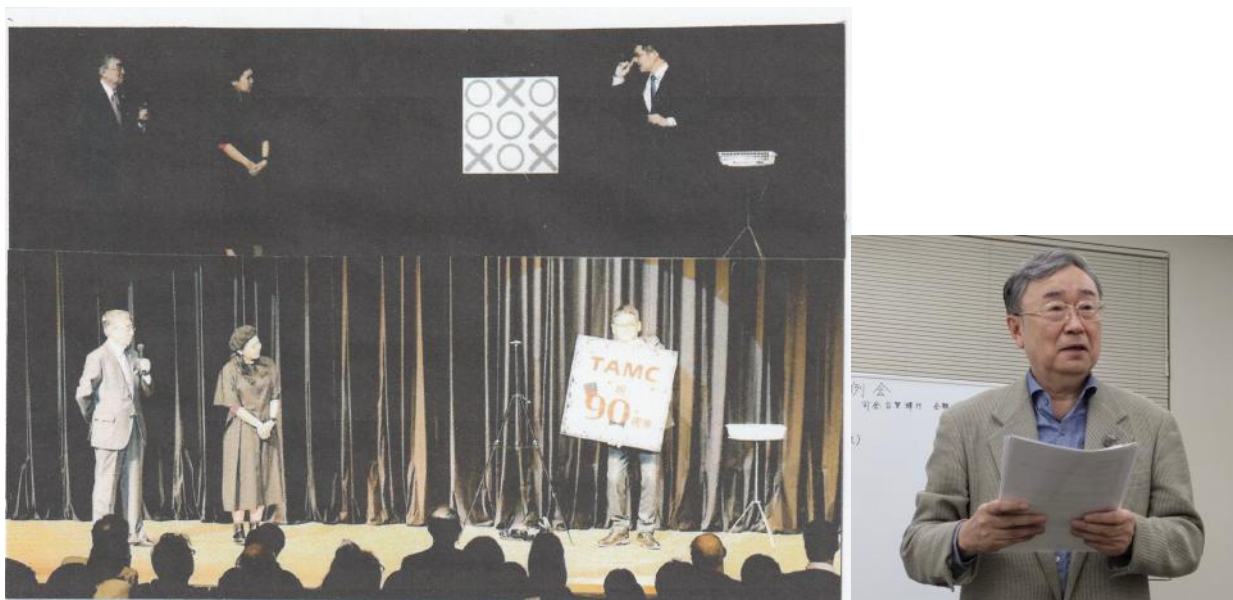
団体演技は、自分だけ良ければ良いというのではなく、演技がリレーの為、一堂に会さねばなりません。

今回は ④光のリレー移動 ⑤光を利用した個人演技 ⑥ヘリウムガスを利用した風船の共同演技の3段階の内容であった。特にヘリウムガス風船には苦勞した。

ガスの入ったボンベやタンクのコックを強く閉じても次回の練習時には、ヘリウムガスがすべて抜けて空になってしまった。

直径30cmの風船にするのにボンベ1本で1.3個分しか入らず約2,600円かかってしまう。何かの関係で風船が割れると2,600円が吹き飛んでしまうのである。

この点では、非常に苦勞をした。しかし、お陰様で大会当日は、まずまずの出来栄で全員がホットいたしました。お客様からも非常に喜ばれました。ありがとうございました。



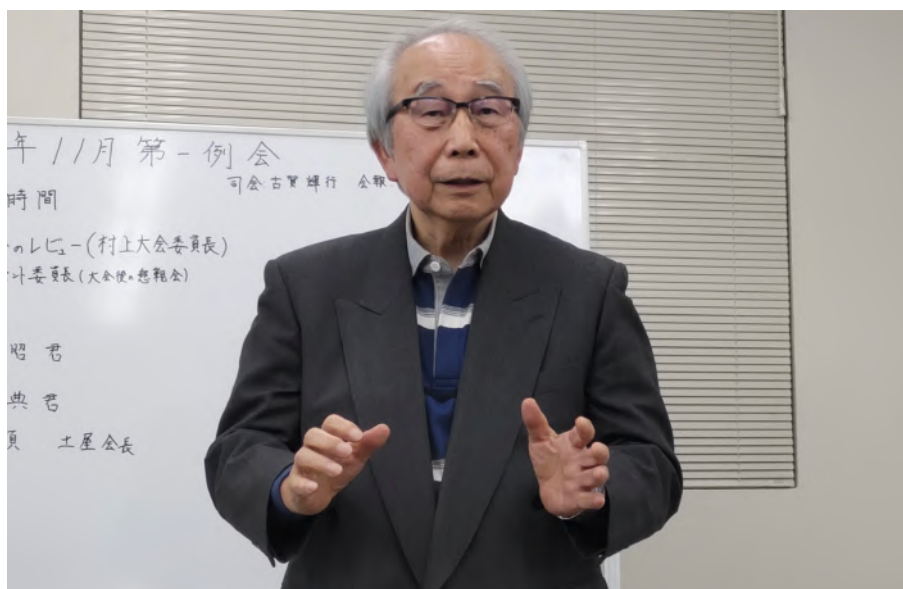
いわゆる〇Xゲーム（欧米では”Tic Tac Toe”と呼ばれている子供の遊び）と思わせて、パネルの裏側に「TAMC 祝 90周年」の大型ディスプレイの完成を見せるマジックです。

記念大会の演技にふさわしいと考え、私が企画してアシスタントを務め、以前例会で同じマジック（パーラー版）を演じた、当会若手のホープ・早川君に演じてもらいました。

7月、8月には練習を終え、9月のリハーサルを迎えたところで、早川君が高熱のコロナに感染、10月の再度のリハ直前で、今度は私が大腸炎（S状結腸憩室炎）を発症、大会直前の10月13日まで8日間絶食、点滴という緊急入院となりました。ギリギリで大会に間に合い、ほっとしました。

観客の感想は「見た目も洒落ていて、90周年にぴったりの内容」、「ばらばらに置いた〇Xのマジックが、何故、あのデザインになるのか、不思議に満ちていた」と、好評でした。

タネは、Xをどこに置いても、それに応じて〇を所定の位置に置き、特定のパターンを作っていく、最後に真中の〇の向きを調整するのです。



今回は90周年の記念大会という節目の発表会にあたり、大トリの演技という大変重みのある大役を仰せつかり、紆余曲折はありましたが何とかその役目を果たせたかなと思っています。

実は、当初私は宝石プロダクションの演技+女性の衣装チェンジで出演することを考えておりましたが、3月半ばごろ大会副委員長の田澤利明さんから連絡をいただき、友人の小田清光氏が製作した「BOX イリュージョン」を借りることができるので、これを使って大トリでイリュージョン・アクトができないだろうか、との打診がありました。そのお話を受け、それなら大会を盛り上げるようなイリュージョンをもう一つ二つ加えたいと思い、友人であるバーディーコヤマ師に相談をしたところ「面白いものが何点かあるよ」ということで、師が所有している「Shadow Tent イリュージョン」を借りてショーを構成することになった次第です。

そこでイリュージョンのアシスタントを誰にお願いするかということになり、友人のプロマジシャン五十嵐ひとみさんに打診したところ、ひとみさんご本人に加えポールダンサーの景子さんがダンスもマジックもでき、アシスタント経験も豊富なお二人の日程を押さえることができましたので依頼することになりました。また男性2人の助手については会員の磯部真一さんと井上由基さんをお願いすることができ、アドバイザーとして田澤さんも加わったイリュージョンチームが編成できました。特に磯部、井上両君は第一部のアタマで“トリオ de マジック”に出演されているだけでなく、大会スタッフとしてステージハンズ（道具係）という重要な役も兼ねていましたが、助演者として大トリのイリュージョンを盛り上げていただき、大変感謝しております。

今回の90周年記念大会の大トリ演技を完成させるにあたり一番苦労したのは練習場所の確保でしたが、田澤さんのお骨折りにより杉並区の公共施設を格安で借りること

ができ、さらに大道具の運搬は井上さんが車を出して全面的に協力してくださり、何とか本番につなげることができました。



イントロで Horizont・スクリーンに夕焼け空をイメージした映像を投影し、これをバックに不思議な出来事が起こります。二人の登山者がテントを張っているところで雷が鳴り、魔女が登場。

魔女がテントに魔法をかけると・・・“007”の Music が流れ、テントからマジシャンが現れる。そして魔女の衣装チェンジ、宝石プロダクションへと続き、後半は Modern Box イリュージョンへと続く。

最後は「夢だったのか・・・」で幕が閉じるというストーリー展開でショーアップしました。音楽と映像をミックスさせ、見て楽しく印象に残るマジックショーを演出し、お客様からの反応も好評のようでした。

以上。



・「懇親会 10/22 の実施報告」 イベント委員長 高橋 雅洋 君

於：有楽町ワイン倶楽部

(東京都千代田区有楽町 1 丁目 7-1)

会員出席者 31 名 御家族 7 名

御来賓者 8 名

※詳細は会報 11 月号に掲載されておりますので、省略いたします。



以下、第一例会に出席できなかった参加者の皆さんからも感想が届いています！

・栗田 研 君

しゃべりの演技が多かったことで、それにより公演時間が全体にちょっと長くなりました。クローズアップもしゃべりなので、ステージで行うしゃべりの演技は1部2部で1つずつというのが妥当でしょう。

リハについてですが、いくら練習や卓上リハでしっかりやっても、当日、現場でしかできないことはあり、どこのクラブでもリハの時間配分には苦勞しています。YMG など他のクラブでもプロの照明を入れるところは、その仕込みに時間が取られてしまいます。当日のリハをスムーズに進めるため、演技を披露する日をもう1回は設けてもいいと思います。別にちゃんとした会場を借りなくても構いませんし、その部屋でできる演技だけやればいいでしょう（イリュージョンなどはやらない）。全体リハで1回リハーサルをただけで、その後、改善するでしょうから、当日、何をどう演じるのか、正確には本人にしか分かりません。本番の一週間くらい前に演技を見られれば、裏方も何をするのか分かり、当日の時間の節約になると思います。節約した時間は大ネタのリハをするのに回します。

当日のリハに余裕を持たせるために、開演時間を 30 分ずらしてもいいかもしれません。借りている会場の時間枠によりますが。

多くの人がサクラを使っているとは思われないように気を使われていますが、私はその点に関して重要視していません。公正に見せようとする、客の選択に時間が取られ、その結果、演技が長くなり、ダレがちです。つまり、サクラだと思われるよりもサクサク進めることを優先しています。手伝ってもらう人が驚いていればサクラだとは思わないと思います。因みに、去年の発表会のクローズアップではサクラとしてではなく、単に手伝いとして予め頼んでいましたが、そういった場合、その人がやる気満々でステージに上がって来られると（舞台上上がることをいやがる人が多い）、それこそサクラに見られてしまうと思います。

・大友 寛信 君

今回初めての大きな舞台での演技ということで、ステージを広く使う事を考えました。

他界された白鳥様、都築様からお譲り受けた道具を用いた和風マジックの演技にしようと考えを練りました。

今回、ゾンビボールに初挑戦しましたがなかなか難しく最後まで苦戦しました。田澤様にご指導いただき大変感謝しております。

本番は緊張の中、表情が硬い演技となり余裕がなかった事から細部が詰めきれて無かったので、今後は今回の経験を活かしていけるような演技となる様に取り組んで参りたいと思います。

・「モンテカルロの裏通りにて」の感想

松岡 尚登 君

今回は、7年前の大会で演じた「モンテカルロの裏通りにて」を再演しました。再演の切っ掛けを作ってくださったのは大原さんです。「松岡さんのモンテカルロをもう一度大会で観たい」という大原さんの言葉に背中を押していただき、このマジックのご考案者である氣賀さんと大会委員長の村上さんにご相談したところ、賛同いただけただので再演を決めました。

このマジックのベースは「スリーカードモンテ」です。それをフレッドカップスが普通のカードで演じることを提案し、更に氣賀さんがジャンボカードを使って舞台上で真正面を向いて演じられるよう改良してくださいました。この演目は、モンテカルロでイカサマ賭博師に引っ掛かった苦い体験談をコミカルに語ります。賭博師と演者の言葉のやり取りの中にマジックの動作を違和感なく収めることがポイントになります。マジックと台詞がうまく噛み合わないと、お客様をストーリーに引き込むことができません。久々に演じるのでうまくできるか不安はありましたが、100回以上練習したお陰で、要所要所でのお客様の反応（拍手やざわめき）を確認しながら演技を進めることができました。

終演後のロビーでお客様から「モンテカルロ面白かったよ」「あの話は実話ですか？」などのお声を頂戴し、演じてよかったと思った次第です。

大原さん、氣賀さん、村上さん、そして道具係の皆さん、この場を借りて改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

・松岡 聡 君

1) TAMCの集客力に驚きました。当日観に来た家族や友人も驚いていました。朝日ホールがほぼ満席になる約600名ものお客さまが来場されたとのことですので、改めてTAMCの長い歴史と会員の皆さまの人脈の広さを痛感しました。

2) あれだけ大きな発表会を開催できるのは、大会委員の皆さまに加えて、TAMC会員の皆さまの幅広い努力と協力があってこそだと思います。私自身があまりお役に立てなかったこともあり、発表会を実現していただいた皆さまに感謝しています。

3) 私自身につきましては、新型コロナ前の出演以来、4年ぶりに出演させていただきました。体調の不安もあり、キチンと準備し、当日演技が出来るか不安がありましたが、お陰様で無事に演技を終えることができ、ホッとしています。病氣療養中で仕事を休職中であることにより、普段より練習をする時間を確保できた効果で、本番ではあまりミスなく演技することが出来たと思います。演目は「地球。愛と平和」とい

う壮大なテーマで演技内容を組み立てました。その思いを満員のお客さまに少しでも伝えられたとしたら幸いです。

4) 来年以後の発表会のことを考えますと、「素人のクラブの発表会なので、(演技のレベルはさておき) 楽しく演じられれば良い」という考え方もあろうかと思いますが、やはりあれだけ大勢のお客さまの前でパフォーマンスをするわけですので、私自身を含めて、発表者はより緊張感をもってしっかり準備・練習をしないとイケないな、と改めて感じました。

・「2023年秋の発表会の総括」

氣賀 康夫 君

今年の秋の発表会も、大会委員長以下、各位の努力で、とてもいい会になったと思いました。

「今回の会はよかった！」という感想は、いつも常用の言い方で、お世辞と自己満足の場合が多いですが、今年は来ていただいた辛口のお客さまからお世辞でなく「今年はよかった。」と言われ、私も本当にそう感じております。

最近、舞台に立つ機会が少なくなり、去年はクローズアップ劇場で古典である「お椀と玉」(関西手順)で登場させていただきましたが、今年はそれも遠慮して、もっばらお土産の企画にだけで貢献するにとどまりました。

土屋会長のご示唆で「Seven Magicians」という新作を提供したのですが、大会委員会から「七福神」もセットにしたいとのお話があり、それも了承しました。

そういうわけで今年は会員席から会をゆっくり鑑賞することができました。

今年のクローズアップ劇場は、佐々木、柏木、倉持という名手が出演するとのことで安心しきっていましたが、当日佐々木さんが突然の発熱で不参加となりました。

後から考えると、そういうときのための控えの代役として、私がクローズアップのコインマジックの手順をお引き受けしてもよかったかなと愚考しました。

プロのオペラ公演などでは、主役が急病の場合にそなえて、常時、代役が裏に待機しているものです。そうしないと公演の穴があくと大事件だからだと聞きます。

この制度のおかげで、有名な歌手の代役で万一のときに備えて控えていた無名の新人が、主役の代演で好演したのがチャンスとなり、それをきっかけに有名歌手になったという話はよく耳にします。

TAMCの発表会では「穴が開いたら、開いたでいいや！」という安易な考え方が許されています。アマチュアならではの特権ですね。(^ - ^)



◆「各種マジック紹介」

神辺 貴昭 君

(1) 紙コップを用いたマジック

< 1 > 藤原邦恭さんのお菓子コップ

(現象)

空の紙コップを示します。口を上にして持ちその口にシルクをかけおまじないをしてシルクを持ち上げ処理します。

紙コップを傾けると中からお菓子が出てきます。

(準備)

紙コップ 紙コップの口に入るくらいの浅いコップ シルク (小)

お菓子をその紙コップに入れてふたをするように口に浅い紙コップをかぶせます。



(方法)

用意した紙コップを少し傾けてお客様に見せて、それから傾けて紙コップの底をしめします。口を上にして持ち、シルクをかぶせます。おまじないをしてつまむようにしてシルクと浅い紙コップを同時に持ち上げて処理をします。

紙コップを傾けて中からお菓子が出てくるのをみせて終わります。

私はここで透明なプラスチックコップでお菓子を入れて示すようにしています。オリジナルでは小さい紙コップでしたが私はやや大き目なものを用いました。たくさんの方数のときにも見せることができるからです。

ただ、紙コップの口元がフタのような浅い紙コップとの間が見られやすいのでそこを指でカバーしながらやっています。

(経験上、マジックマニアでない方々にはまったくばれていません)



< 2 > 紙コップにストローが貫通

(現象)

空の紙コップにストローが貫通してしまいます。

(準備)

紙コップの底に長方形の穴をあけておきます。またもう一つ同じサイズの紙コップの底をくりぬいて丸い底だけの紙を作ります。

その丸い紙を先ほど底に穴をあけた紙コップの口から入れて下まで落とし穴をふさぎます。ちょうど五右衛門風呂に入るように丸い紙をおろします。

ストローを1本準備します。



(方法)

用意した紙コップの中を観客に見せます。

次にその紙コップを、口を上にして立てて紙コップの下側を包むように持ちます。その持った薬指をそこの穴から入れて中の丸い紙を持ち上げるようにします。紙コップの中ではフラップが開いたような状態になります。

そこにもう片方の手で上からストローを入れます。底の穴に通るようにして貫通させます。

ストローを取り出したら再びフラップ状の丸い紙を伏せるよう戻します。紙コップの中を見せて何も無いことを示します。



(備考)

これは私のマジックノートに書かれていたもので誰か演じていたのを観て自分で考えたものかもしれません。誰のオリジナルかはわかりません。何度もマジックマニアの前で演じて、やり方を教えてくれ、と頼まれた経験上 TAMC の例会で発表をした次第です。

(2) ボナ植木さんの「正夢カード・II」

(現象)

一人のお客様に一組のカードから2枚選んでいただき、「必要なカード」をテーブル上のワイングラスに、「必要でないカード」をそのワイングラスの足元に立てておきます。(2枚ともお客様からはカードの裏面が見えています)

昨日見た夢が書いてあるスケッチブックをとりだします。

タイトル「正夢」とあります。

以下フリップとしてこのスケッチブックを見せていきます。

「私は昨日夢を見た。美女が2枚のカードを選んだ」
(お客様の顔を見てまさに「正夢」という顔をする)
「そのうち選ばれなかったカードは」
「♠の10だった」
(ワイングラスの足元のカードを表返して当たっていることを示します)
「そして選んだカードは」
「♦の5だった」
(演者はグラスのカードの表をみて 「当たってる」といいます)
「ショーのあとマジシャンは美女と仲良くなった」
「そこで・・・」
「目が覚めた」
(あらま)
「ところで♦の5だったの？」
(グラスの中のカードを取り上げて表を見せ、♦の5であることを示して終わります)

(備考)

この作品はボナ植木さんが今実際に営業で演じておられるものですので、ここではやり方を解説することは差し控えます。

方法をお知りになりたい方は、

ボナ植木「価齢なるマジシャンの秘密ノート 3」(2019年)

に掲載されておりますのでご参照ください。



(3) 高木重朗先生から教えてもらったティッシュペーパーを用いたマジック

(現象)

ティッシュペーパーを細く切り指先で丸め玉を作ります。それを3個テーブルに一列に並べ、2個手に入れ1個はポケットに入れてしまいます。

しかし手の中には3個の玉が入っています。

今度は2個の玉をポケットに入れて1個を手の中に入れます。手の中には1個あるのですが、手を開くとティッシュの玉でなくてボールが出てきます。

(準備)

あらかじめもう一つティッシュの玉を作っておいてポケットに入れておきます。

また、同じポケットに小さなカラーボールを入れておきます。

(方法)

- ① ティッシュの玉を3個横にならべて、右の一つをとり左手に渡し握ります。二つ目（真ん中）も同様に右手でとりあげ左手で握ります。三つ目（左）を右手でとりあげポケットにしまいます。

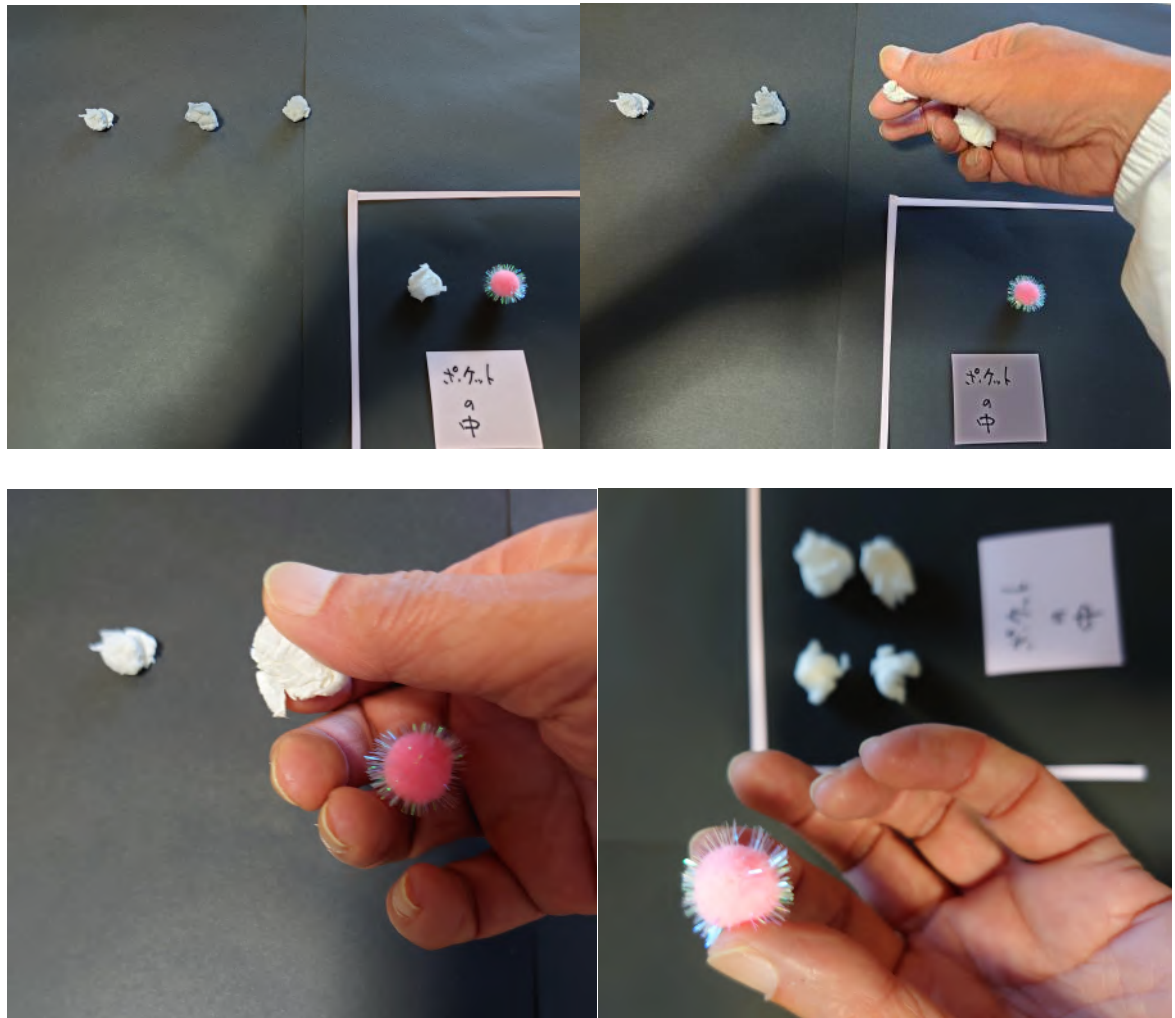
「手の中にいくつありますか？」とお客様に訊くと「2個」と応答があり左手を開くと実際2個あります。

- ② もう一度やってみましょう、と言って右手でポケットの中の玉を取り出しますが、もう一つあらかじめ用意した玉をフィンガーパームして取り出します。3個の玉を①同様並べ（右手には一つ玉がパームされている）、一つ目を取り上げ左手に渡します。二つ目を取り上げ左手に渡すときパームしている玉も一緒に左手に渡して握ってしまいます。三つ目は右手で取り上げポケットに入れてしまいます。

手には何個あるでしょう、と聞いて答えを待って左手を開くと3個あります。

- ③ その3個をまたテーブルに並べて、今度は一つ目を右手で取り上げポケットにしまいます。手を出すときにポケットの中のボールをフィンガーパームして秘かにもってきます。二つ目の玉を右手で取り上げそれを左手に渡すとき秘かに右手のパームしたボールとティッシュの玉を右手の指の中ですり替えてボールを左で握ります。ティッシュの玉はパームしたまま3個目の玉を右手で取り上げそれをポケットに入れてしまいます。そのときパームした玉も入れてしまいます。

「手にはいくつありますか？」ときくと素直な人ならば1個と答えるでしょう。「そのとおりで1個です」と言って左手を開いてカラーボールをしめして終わります。



(備考)

この作品は高木先生に「すぐに簡単にできるマジックはないでしょうか？」と質問したときに教えていただいたものです。「最後のカラーボールがない場合はキャンディなどで演じるといいでしょう」とアドバイスされました。

古いマジックらしく、本来は最後にクルミが出てくるそうです。



1. 83歳になりました

私の誕生日は10月です。83歳になりました。

マジックを始めたきっかけは、就職して私自身に社交性に欠けていることに気づいたからです。大学時代は、広いキャンパスの中で学生寮と研究室の間を通うだけの生活だったので、いつしか社会と離れた生活をしていました。

これではいけないと思って、産経学園のマジック教室に通いました。この時のマジック講師が森田銈治郎氏（現会員 森田さんの父上）で、のちに彼がTAMC12代会長になった時に、TAMCに入会しました。

この時に習ったもので今でも常時、財布にに入れて持ち歩いている3枚カードのマジックがあります。これは、いつでもどこでも誰にでも、手軽に演じることができるので社交下手の私を救ってくれました。もう一つ常時持ち歩いているものはサムチップです。

これは入会時の推薦者であった故川崎利明（14代会長）から教えてもらったものです。

（当日、この2つのマジックを、最初に披露しました）

2. インビジブルスレッドに魅せられて

私は、森田銈治郎氏の遺品としてインビジブルスレッドをいただきました。

それ以来、インビジブルスレッドのマジックに興味をもって取り組んできましたが、問題は見えない糸との戦いでした。糸を変えたり、服装や背景を黒にしたり、照明を暗くしたり、観客からの距離をとったりと色々、工夫してきましたが、なかなかうまくゆきませんでした。

ところが、今年9月の土曜研修会でバーディ小山氏の研修を受けて一変しました。

いただいた糸を使うと、背景等一切の工夫をしなくとも演出できることが分かったのです。

その代り、糸が細すぎてすぐに切れてしまうという欠点がありますが、練習によってカバーできると思って、ますますインビジブルスレッドに興味を持っております。

（当日はインビジブルスレッドを使って、風船と紙玉の2つのマジックを演技しましたが、途中で糸が切れて続行不能となりました。再度練習を重ねて例会で披露させていただきたいと思います）



◆シルクとロープの手順

松岡 聡 君

1. 迷宮シルク、ボトルプロダクション、分割ボトル

- ・ 峯村健二氏の名作「迷宮シルク & ボトルプロダクション」の演技をしました。
- ・ オランダのマジシャン、マーコニック氏のトライアングルという演技のシステムが原案のようでして、峯村氏がそれを進化させて迷宮シルクを確立されたそうです。
- ・ 迷宮シルクの最後のオチは、ボトルの出現です。
- ・ 演技手順は以下の通りです。

- ① Silk Production
- ② Color Change
- ③ 20th Century Silk
- ④ Shape O
- ⑤ Shape Y
- ⑥ Bottle Production (黒と赤のシルクの出現を含む)

・ この迷宮シルクの最後のオチはサロンマジックの場合は十分かと思いますが、ステージマジックを意識しますと、もの足りなく感じ、ここで出現させるワインボトルを普通のボトルではなく「分割ボトル」に変更し、最後は 90cm シルクとくす玉を出して終わらせる二段オチの演技にしました。

- ⑦ 分割ボトル (90cm シルクと2つのくす玉の出現)

- ・ 発表では、分割ボトルを採用したことによる苦勞について少し触れました。また、自作のシルクホルダーについて、自分の工夫などを紹介しました。



2. ロープとシルク

・前週に渋谷駿氏のレクチャーを受講する機会があり、その中でシルクのロープ貫通を扱っていただいたので、それを含めた演技をすることにしました。

・ロープの手順は以下の通りです。最後にシルクの貫通を行いました。

- ① ロープからのシルク出し
- ② 一つの結び目（フォールスノット）を作り、その結び目の移動
- ③ 結び目をロープから抜いたのに、元の場所に復元
- ④ 結び目が一瞬で逆のロープ端に移動
- ⑤ ロープに輪っかを作って、シルクを通し、シルクを結び、ロープを真っすぐにして、シルクの横抜け
- ⑥ ロープを蝶ネクタイの形にして、右も左も3回巻き付けて、しっかり絡ませたのに、一瞬にして解ける
- ⑦ ロープを手に4回巻き付けて一瞬にして4つの結び目の出現
- ⑧ その4つの結び目を指に入れていき、一瞬で全てを解く
- ⑨ シルクをロープに巻き付けて、二度結んだ後で、ロープの貫通（ロープ上部へのすり抜け）

・ロープの演技は比較的地味な演技ですが、一連の現象を分かりやすく演技することにより、かなり不思議で面白い演技になります。

・最初にシルクの出現で観客の目を引き付け、その後、結び目を1つから段々と4つに増やして（段々と盛り上げていき）、最後のハイライトでシルクがロープを貫通（すり抜ける）という構成にしました。



10年程前から地方会員になり、例会はwebで参加することが多く日頃すっかりご無沙汰しております。移り住んだ西宮にもマジッククラブがあり、私はそこにも参加しております。

TAMCの90周年記念大会は、西宮のクラブ結成45周年行事と重なって参加できず、失礼しました。

11月は私の誕生日と言うことで今回会員発表をさせていただくことになりました。

今回の発表テーマはいずれもTAMC会員からご指導いただいた演目で、私なりにアレンジして発表させていただきます。

1. 狸が化ける

<演技内容>

- ・3枚のカードを裏向きに持って登場し、枚数を改める。
- ・1枚ずつ表を改めると3枚とも狸の絵柄になっている。
- ・お呪いを掛けて1枚ずつ改めると全て娘さんに化け損なった狸の絵柄になっている。
- ・もう一度お呪いを掛けてから1枚ずつ改めると、今度は全て娘さんの絵柄になっている。
- ・「その辺に居る娘さんは狸が化けたのかもしれないからご用心」と言って締めくくる。

<解説>

これは古くから「松竹梅」として演じられてきたものを、かつて森田晃様が脚色して制作され、一連のオクションで出品されたものです。最後の落ちが面白く、私なりに演じさせていただきました。（森田晃ノート 01 巻 27 章を引用）



2. 嘘当てマジック

<演技>

- ・ 16種類の果物の写真が縦横に並べて表示された一覧表を提示しておく。
- ・ 客に好きな果物を一つ覚えてもらう。
- ・ 演者は果物の写真が8つずつ表示された紙を客に示し、覚えた果物がのっているか尋ねる。
- ・ 客は「有る」or「無い」と答える。
- ・ これを4種類繰り返す。
- ・ 演者は客の覚えた果物を当てることができる。
- ・ 次に「お客様は1回だけ嘘をついてもいいです」と言って同じように果物の写真が表示された紙を示す。
- ・ 今度は7種類の紙を客に示して回答を求める。
- ・ ここで演者は「お客様はこの紙で嘘をつきましたね」
「有るのに無いと答えましたね」もしくは「無いのに有ると答えましたね」と嘘をただす。
- ・ 最初の4枚を嘘のない状態にただして、客の覚えた果物を当てることができる。

<解説>

これは以前より理論の知られている2進法を利用した数理マジックで、東京理科大学の秋山仁教授がマジックとして紹介しておられるものをTAMC高橋哲夫様から紹介を受け、私なりにアレンジしました。

理論は下記 URL を参照してください。「なるほど納得ゼミナール」
<https://www.tus.ac.jp/mse/wp-content/uploads/2016/12/a145814ccf9c632709eed98580d0cd54.pdf>



ゼミナールでは数当てとして紹介されていますが、演技として楽しくするため1～15までの数字に果物を割り当てて写真表示としました。大きく掲示する際に、縦横4×4として、16番目にも果物を割り当てました。

第1ステップでは、嘘なしの条件で果物を当てることとしました。(2進法の原理)この場合は紙4枚だけ使います。

客があると言った紙の最初の果物に割り当てた数字を加え合わせて、その和の値に割り当てた果物が客の覚えた果物となります。紙の裏に先頭果物の番号をメモしておく、演者は客に紙を示しながら裏の数字を暗算で足し合わせて答えを知ることができ、便利です。

4枚ともに無いという結果の場合は、客の覚えた果物は16番目のものになります。

次に第2ステップとして、一度だけ嘘を言ってもよいという条件で演技を行う場合の説明をします。（誤り修正符号理論の活用）

添付ゼミナールの解説書にあるように、この場合は3枚の紙を追加します。7枚全ての紙に赤、青、緑のマークを割り付けます。ゼミの解説通り組み合わせを分析すると、客が嘘をついたかどうか、嘘をついた紙はどれかが分かります。嘘をたいた後に最初の4枚の紙の中で残っているものを使って、第1ステップと同じ手順で解を得ることができます。このときも7枚の紙の背面に解説書にある赤、青、緑のマークを記入しておく、と、演じている際に裏を見て解析しやすくなります。

私の演技の際に混乱を引き起こし、うまく解を得られなかった（失敗した）ように、このステップはかなり困難が予想されます。当日ご指摘いただいたように、「有るのを無いと言う嘘だけを許す」と限定して演じる方が、扱う紙の枚数が少なくなり、間違いを引き起こすリスクが少ないと思います。



3. ミラクルボール

<演技>

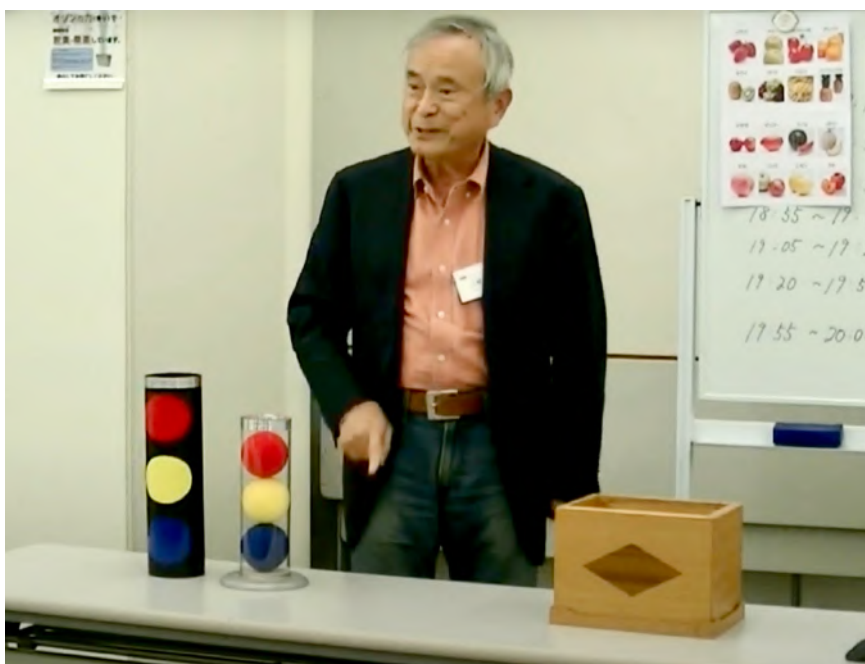
- ・透明の筒に、下から青、黄、赤のボールが入っている。
- ・この透明の筒に上からかぶせるための黒い筒が横に置いてあり、黒い筒の表面には透明筒のボールと同じ色の青、黄、赤の丸いシールが貼ってある。
- ・そのほかに日本せいろ（以後単に「せいろ」と表記する）を使用する。
- ・杵を持ち上げ中がカラとあらためた「せいろ」の中に、筒のボールを入れ、カラになった筒には黒い筒をかぶせる。
- ・次に「せいろ」からボールを青→黄→赤の順で一つずつ取り出し、机上の黒い筒の中に入れてゆく。
- ・お呪いを掛けて黒い筒を抜き取ると、透明の筒の中のボールが下から赤→青→黄と順番が変わっている。

- ・次に同じようにボールをカラとあらためた「せいろ」に入れたのち、黒いカバーをかぶせた筒にボールを一つずつ入れていくが、最後に赤のボールは筒に入れないで「せいろ」に戻す。
- ・黒い筒を抜くとボールは下から赤→青→黄と入っている。赤のボールはなぜか筒に入っている。
- ・「せいろ」のカバーを持ち上げて、中を客に見せてもボールは残っていない。
- ・次に、同じように筒にボールを入れていき、筒から「せいろ」の方へ「飛んでゆけ」と言わんばかりにおまじないを掛ける。
- ・黒い筒を抜くと最後に入れたはずの赤いボールがなくなっている。
- ・「せいろ」の中を見せると 赤いボールが入っている。
- ・「せいろ」の外枠を戻し、黒い筒を戻し、「せいろ」の方から筒の方へ「赤いボールよ飛んでゆけ」とおまじないを掛ける。
- ・「せいろ」の外枠を持ち上げて中を改めると中は空になっていて、黒い筒を持ち上げると赤いボールが一番上に戻っている。
- ・演者は客に「これで元に戻ったので私は安心して終われます」と言って演技を終了する。

<解説>

昨年の発表会で田中雅康様が演じた演技を発展させて、チェンジングバッグの代わりに「せいろ」を使用したものです。「せいろ」の収納スペースに赤いボールを入れたり出したりして、消失、出現を演出しました。変形するスポンジボールだから実施できた演技でした。

このマジックをまとめ上げるに当たっては、TAMC 田澤利明様に技術指導いただき試行錯誤を繰り返したものです。



◆「各種マジック紹介」

濱谷 堅蔵 君

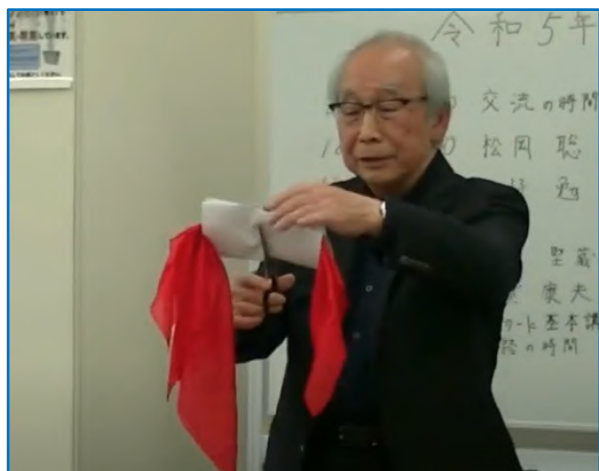
コロナ禍が明けてからも例会には毎回出席しておりましたが、会員発表するのはなんと3年ぶりです。私の誕生日は昭和20年（1945年）9月22日であり、今年で78歳となってしまいました。本来なら誕生月の9月例会で発表するところでしたが、9～12月の会員発表プログラムの編成上、濱谷が本日の例会で発表することになりました。

今回は「各種マジックの紹介」ということで

- ① 秋の大会で演じた「宝石プロダクション」の演技
- ② 坂本種芳の「復活するハンカチーフ」
- ③ 沙門零の「Hyper Silk Cut」

のマジックをご覧にいれましたが、例会の演技では一部見苦しい部分や分かりにくい箇所がありましたので、記録動画では田澤利明さんが沙門零師の Hyper Silk Cut 動画を挿入・編集されましたので助かりました。

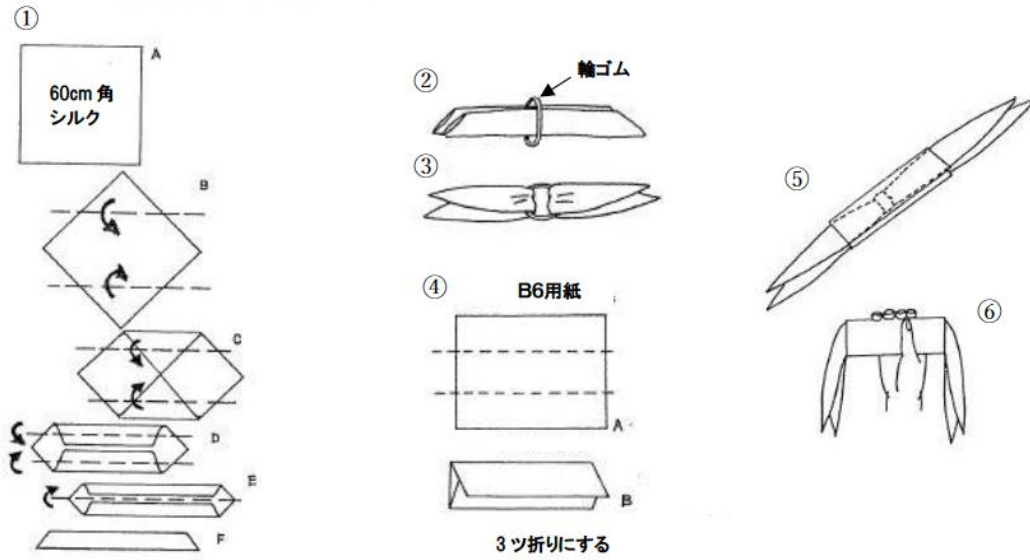
①は手にした手袋からネックレスの出現、バニシング・ケーンtoネックレス、シルクから宝石の出現、そしてチェンジングバックへと続く宝石プロダクションのルーティンを実演後、スライハンドマジックでよく使うジャリを使った引きネタについて従来から私がやってきた手法「2倍の原理」を説明し、そのポイントを解説しました。



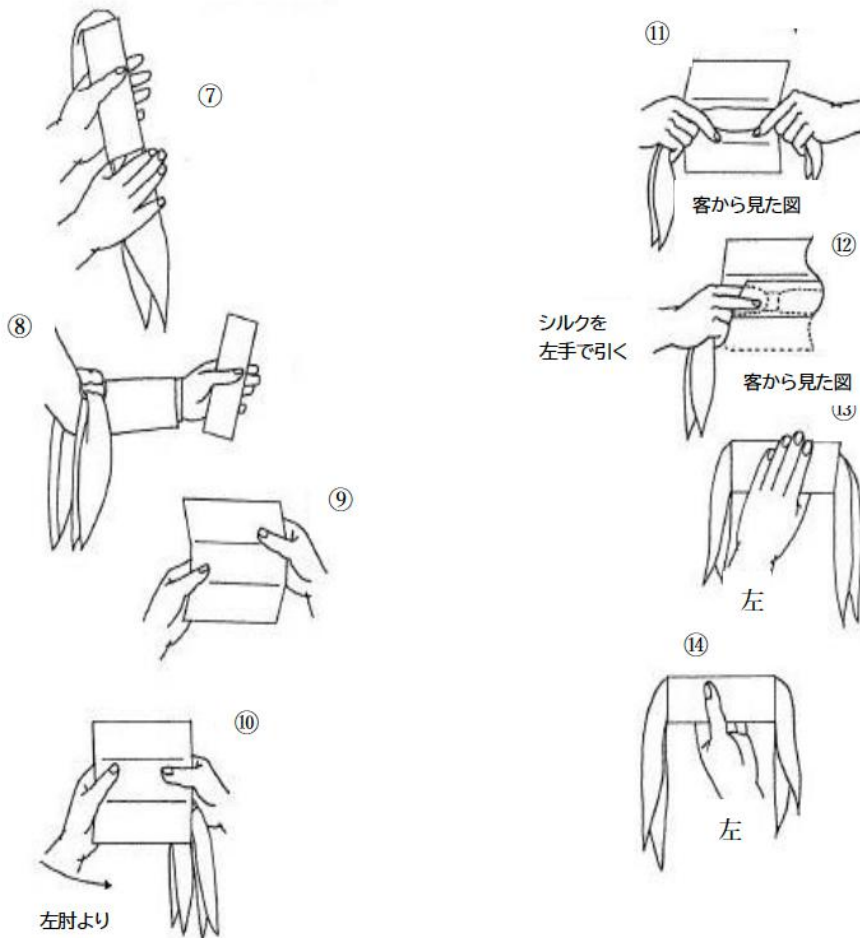
②の「紙に巻いたハンカチーフを切る復元マジック」（切っても切れないハンカチ）はTAMC第5代および7代会長の坂本種芳氏が創案した「新聞紙に包んだハンカチを切る手品」として昭和11年10月のTAMC第4回試演会で初演された奇術です。

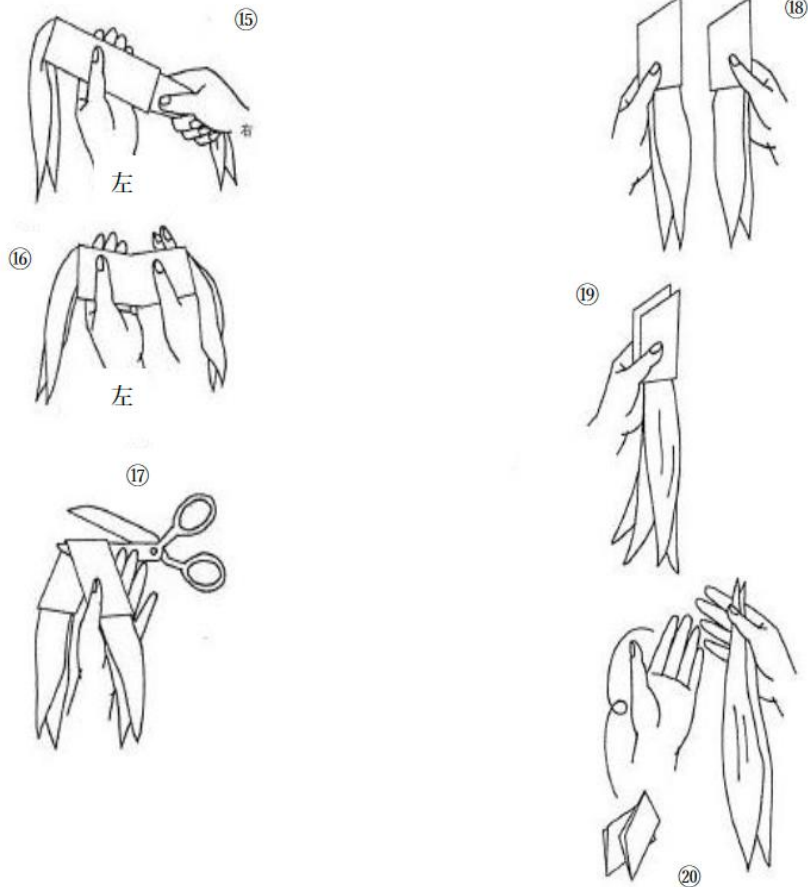
当時のTAMC会報には柳澤義胤氏の挿絵による解説があります。

私が高校生の時（1961年）にJMA（日本奇術連盟）の月例会で高木重朗先生から教わった古典奇術です。今回は新聞紙の代わりに白紙を使い、糸の代わりに輪ゴムを使ったバージョンで演じました。



同色の 60cm 角シルク 2枚のそれぞれ対角線を内側に折りたたみ①、その 2枚を重ね、中央を輪ゴムで止め②、中央を③のように折り返す。次に B6 サイズの用紙を 3つ折りにし④、その中に③のシルクを挟みこみ⑤、これを右手に持つ⑥。
以降、⑦～⑳の要領で続ける。





そしてこの奇術を沙門零が新しい原理で考案した作品が
③の「Hyper Silk Cut」となります。

参考動画はこちら

<https://youtu.be/-qh-7VI3AYU>



以上



＜カードマジックを敬遠気味の会員＞のための「カード奇術基本講座」を総務委員会のご示唆で実施してきたが、今回がその最終回である。この講座で一人でも多くの会員がカード奇術に関心を持っていただけるならば幸いである。

「ビドルムーブ」



Elmer K. Biddle



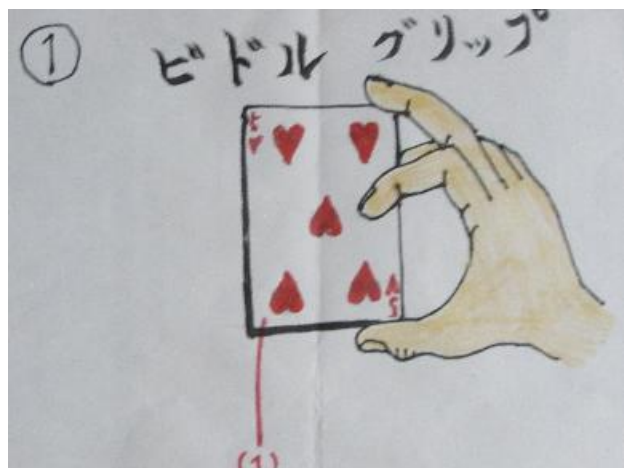
Elmer K. Biddle

＜解説＞

ビドルムーブはエルクブリカウントとともに 20 世紀に開発された優れた技法である。ビドルムーブはアメリカの研究家 Elmer. K. Biddle (1903～1981) が考案したユニークな手法であるが、エルクブリカウントと比べると技術的に易しく、また応用範囲は広いはずであるが、現実にはあまり利用がなされていないようである。これは将来の研究テーマである。

<技法>

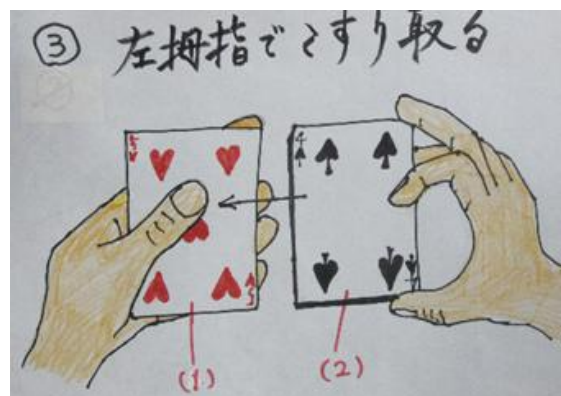
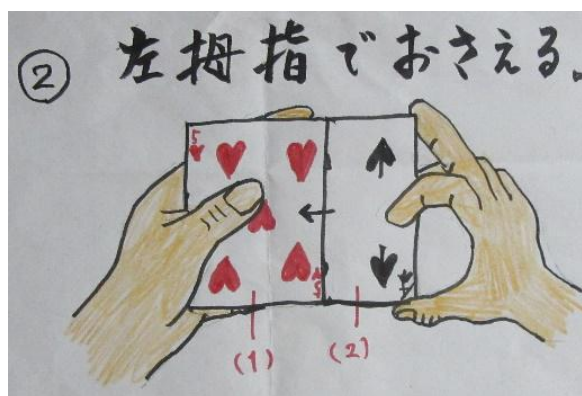
その基本的ハンドリングをイラストで説明する。



本当はカード数枚（ポケット）を持ち、カードを一枚ずつ数えながら手から手に手渡す動作は、当初ポケットを左手のディーリングポジションで持ち、上から順にカードを右手に取っていく動作が最も自然である。

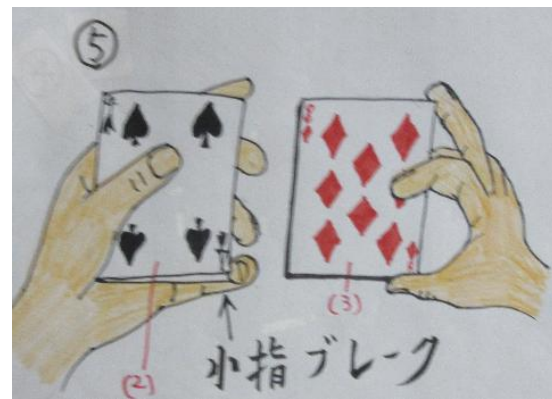
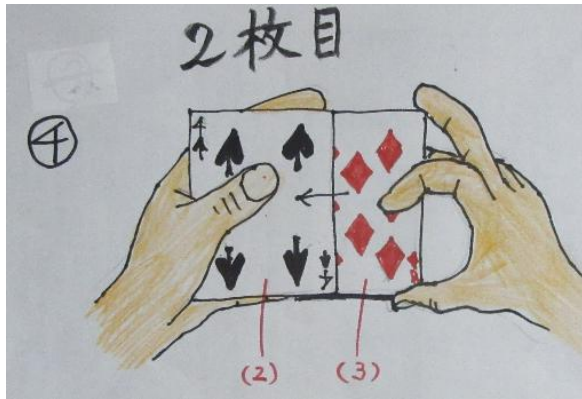
しかし、そのハンドリングではビドルムーブができない。そこでこの手法のためにはカードを第1図のビドルグリップと呼ばれる持ち方で持つ。

基本的に、カードを右手で保持している場合、右下隅の拇指と右上隅の中指とがカードを挟み持つ姿となる。このとき薬指、小指は遊んでいる。食指も仕事はないが、観客の視界の邪魔にならないようにカードの右側にそっと添えられているくらいがよい。なお、このビドルグリップはビドルムーブ以外でも用いられることが多い。あまり不自然ではないので、準標準的な持ち方であると言えるだろう。



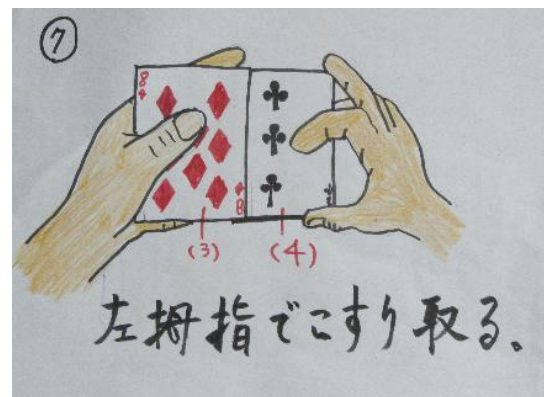
次に左手拇指を使って一番表側の一枚（♡5）を左方向に擦り取る。第2図がその操作を表す。このとき右手の持っているカードと左手が擦り取るカードとは完全に平行ではなく、10度くらい角度を持っている方が動作がしやすいであろう。なお、左拇指が乾燥し過ぎていると、この動作がスムーズにできない。

第3図は一番表側のカードが左手に手渡された瞬間を示す。観客には次のカード（♠4）がよく見えている。



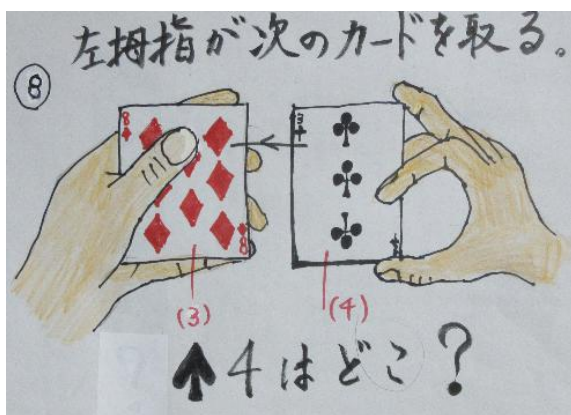
第4図はその次のカード（♠4）を擦り取る場所を表す。そして第5図はこの2枚目のカードが完全に左手に渡ったところを示す。

ここで大切なことはビドルムーブで左手に取ったと見せかけて、それを右手に密かに取る動作のためには、処理すべきカードの下に左小指の指先の肉を少し挟んでブレークを保つことが必要である。このブレークは術者の目には見えているが、観客側から見るとカードが揃っているように見える状態である。



第6図は左拇指が3枚目のカード（◇8）を擦り取ろうとする瞬間である。このとき、右手の持っているパケットは左手が取ったカードの上にちょうど重なるようになる。

第7図では、3枚目（◇8）が左手に取られるところを示す。このときにはその次のカード4枚目（♣3）がもう見えている。



第8図では3枚目（◇8）は完全に左手に手渡され、右手には次の4枚目（♣3）がよく見えている。さて、この第8図まで動作が進んだとき2枚目のカード（♣4）はどこにあるだろうか？通常の動作では、そのカードは当然左手にあるはずである。しかし、ビドルムーブを実行した場合にはそのカードは右手のパケットの下に隠される結果となる。

この技法が正しく実行される場合には、観客側から見ていると、通常の動作とビドルムーブを実行した場合とは、外見が全く同一である。

以上がビドルムーブの基本的ハンドリングである。

左小指のブレイクの上のカードが1枚のときには密かに右手に移動するカードは1枚だけであるが、ブレイクの上に複数のカードを保持しておいて技法を実行すれば、複数のカードをビドルムーブすることができる。

極端な場合には10枚のパケットのカードを右手に持ち、1枚ずつ10枚を左手に取りるように見せながら、2枚目から8枚目までの7枚を、次の9枚目を数える瞬間にビドルムーブを実行して、右手の10枚目の下に密かに取ることもできる。ただし、そのときは最後の10枚目は1枚でなく8枚の束になっているから、そのままのリズムで右手のカードをそっと左手の山（9枚と見えているが実は2枚）の上に置かなければならないことになる。

また筆者は「水と油」のクライマックスの段階で赤のカード6枚と黒のカード6枚を交互にして12枚の山を作り、それを表向きで「赤、黒、赤、黒……」と確認して数え取りつつ、一枚おきにビドルムーブを実行し、最後にそのまま赤6枚、黒6枚に完全分離する演出を行っているが、そんな露骨な奇術もビドルムーブがスムーズにできれば効果的な演出となる。

<応用マジック>

1. この日の発表では、1から10までの10枚のカードを示し、それを5枚、5枚の山にする動作で、適当な枚数を山から山に移動する演技をデモンストレーションした。（最低1枚、最高3枚）
2. そして「水と油」のクライマックスの実演（上記参照）を行った。

『11月土曜研修実施報告』

研究・研修委員会

開催日時：2023年11月25日（土） 13：30～17：00

会場：（株）電巧社 2階 Mシアター

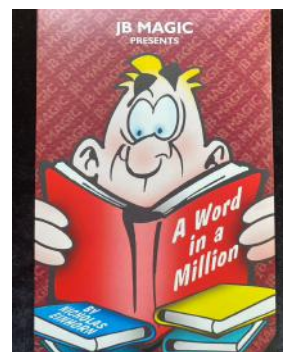
出席者：15名

講習内容と講師

1. ボランティア向けのサロンマジック3題（講師：田澤利明）

<https://youtu.be/p7CRB1gaLZM>

- 1. A Word in A Million by Nicholas Einhorn（ブックテスト）
- 2. 客が選んだカードだけが裏の色が変わっている。
- 3. Thompson Change by Steve Thompson（お札のクイックチェンジ）



2. Magnetizing（どんなものでも磁石にしてしまう）Magic（講師：磯部真一）

<https://youtu.be/CTjUIJ2w9SI>

- 1. コインの磁石化
- 2. フォーク、ナイフ、カード等の磁石化



ダウンロード希望者は、クラウドサーバーBOX（20231125 土曜研修(磯部、田澤)）

<https://tamc1.box.com/s/lyzh0gfl6if8tco3i71m0vn2w3tho742>

をクリックして必要なファイルをダウンロードしてください。

11月19日新宿区の柏地域センターで行われた「新宿かしわまつり」に、高橋（忠利）、古賀、牧原の3人で参加してきました。

1階広場では食品などの模擬店、地下1階の多目的ホールでは子供達の体験スペースがあり、そこで30分のマジックショーを3回行いました。

高橋さんは子供達とロープ切りやフルーツのカード当て、新聞紙のカード当て、タンバリンなどを演じました。牧原は和妻で、袖たまご、紅白連理、高橋さんと6枚のさくらを。古賀さんはブレンドシルク、バラの花とライト、ドリームボックスなど。

お客様は色々なコーナーを回ってからマジックショーに来るので、毎回お客様の呼び込みからやりました。

純粹無垢な子供達の新鮮な驚きが嬉しかったです。

終了後、高橋さんのところに、「弟子にしてください」という少年が現れ、高橋さんも嬉しそうでした。



【情 報】 島田晴夫師の遺品が、日本国内で公開されることが決定！

北海道・帯広市で永年マジック・ミュージアムを開館していた坂本和昭氏より、以下の連絡がありました。同氏は日本奇術協会の会報「ワン・ツー・スリー」に、「島田晴夫物語」を連載した大の島田ファンです。

今回、島田晴夫師の全ての遺品が、北海道虻田郡（羊蹄山のふもと）にあるルスツ・リゾート（ホテル、ゴルフ場、スキー場を経営）に譲渡されることになった。来年5月に、坂本氏のマジック・ミュージアムを引き継ぎ、島田晴夫師の全ての遺品が、新設される同リゾート内のマジック・ミュージアムで、同時公開されることになったもの。島田夫人のキーリーさんと、ルスツ・リゾートとの交渉を坂本氏が仲介したとのこと（譲渡額は不明）。

これにより、ドラゴン・イリュージョンも含め、島田師の大道具、小道具、衣装、カード、ビリヤードボール、和傘、ブロマイド写真などが、日本国内で見られることが決定しました。



佐久間 甫 君

1929年3月29日生まれ。
 三菱重工業（株）副社長。
 1961年6月入会。2017年2月退会
 2023年11月8日逝去 94歳



『典型的な三菱紳士』

結婚して奥様の親類へ挨拶に行った時のこと。

お酒を飲んで、皆で歌になり、佐久間さんも一緒になって歌った。その帰り道、奥様から「たのむからもう人前で歌を歌うのはしないで下さい」と言われたそうです。それほど、佐久間さんの歌はひどかったらしいのです。

奥様が「今日の集まりの中にいた叔父さんに手品を習って、歌の代わりにしたら」と言われます。それでは、というわけで弟子入りをしました。そのお師匠さんが坂本種芳さん（TAMC 5代、7代会長）でした。

その後、カラオケに背を向けて、カードがなくても、ミルクがなくても、何とか手品でしのげるようになり、会社では秘書嬢たちに手品を教えて楽しめるようになりました。

会社の三菱重工の同僚でTAMC 会員の小池雪郎氏、小永井暹氏と3人で、第25回大会（1970）で「スリーダイヤモンド」という題で共演したことがあります。カードのダイヤを3枚使って、ダイヤの3から三菱のマークにするという趣向のものでした。ジャンボカードを鉄板で作って、マークのダイヤをマグネットゴムで貼り付けるというものでした。

当時は、その年の4月に東京の下丸子の工場（三菱重工東京製作所）から相模原工場へ引っ越しした時ですから、皆、超多忙の時期でした。小池さんはその時の所長で最高責任者ですから超多難でしたが、夕方になると3人がひそかに小池宅で夕食をご馳走になりながら、練習を繰り返したそうです。

「究極の得意技」として第54回大会

（1999）に「ディスク・ファンタジー」

（演者評：これはキレイな手品だな、と思わず感じたのがキッカケでした。その後皆さんに磨いていただき、私の好きな手品となっております）を演じています。

その他、第53回大会でクローズアップ・マジック「Back to the Future」などを披露しました。



昭和45年試演大会より、左から小永井氏、小池氏、佐久間氏

「スリーダイヤモンド」の演技写真・60周年誌33頁

編集後記

10月22日、TAMCの一大イベントである『第75回TAMCマジック発表会』が開催され、その余韻冷めやらぬ中、11月の第一例会では大会を振り返って出演者による感想や反省が述べられました。

感想や反省の弁は当日例会に出席できなかった出演者の方々からも寄せられ、11月号が「秋の大会特集」だとすれば、12月号は「秋の大会振り返り特集」の様相を呈し、ボリュームのある充実した会報となりました。

11月は上旬まで11月としては異例の夏日が観測されるほどの記録的な残暑が続き、危機感すら感じておりました。国連のグテーレス事務総長は地球温暖化ならぬ地球沸騰化という言葉で危機感を表明しており、人類の今後のあり方を問われる深刻な事態になっているのではと懸念します。

しかし、中旬ごろより突如として冬のような寒さを感じるような日もあり、四季のうちで秋が最も好きな9月生まれの私は秋らしい秋が年々なくなってきていることに寂しさを覚えます。

秋といえば、木々の紅葉はいにしえから人々の心を和ませてきました。小倉百人一首は四季のうちで秋の歌が最も多く詠まれているとのことですが、それも納得です。

というわけで、今号の表紙は滋賀県が誇る湖東三山の紅葉の写真を掲載してみました。

今年はなかなかゆっくり滋賀に帰省する時間がなく、掲載写真は数年前の11月に撮影したものです。

今NHKの連続テレビ小説（朝ドラ）で「ブギウギ」が放送中ですが、劇団員がストライキをして山に籠るシーンで、その舞台として湖東三山の百濟寺が使われていたのを見たときは滋賀県民として嬉しく思いました。

最後に私の好きな歌を一首。

山川（やまがわ）に
風のかけたる しがらみは
流れもあへぬ
もみぢなりけり
春道列樹



紅葉の盛りの木々の葉ではなく、散ってしまい川に流れてしまった葉にスポットを当てる粋を感じます！ 京都から滋賀（大津）に抜ける山越えにて詠んだ歌だそうです。

末筆ながら、今回も多くのお写真をご提供いただいた池内和彦会員に深謝いたします。

TAMC 会報 2023 年 12 月号 記録・編集 柏木直也